

[成果情報名]八重咲きテッポウユリ「咲八姫(さくやひめ)」の特性

[要約]テッポウユリ新品種「咲八姫」は、従来のテッポウユリより花被片の数が2倍以上多い八重咲きで、ユリの重要病害である葉枯病に強い性質を有している。

[キーワード]テッポウユリ、八重、新品種、新奇性、新規需要

[担当]鹿児島県農業開発総合センター・果樹・花き部 花き研究室

[代表連絡先]電話 099-245-1159

[分類]普及成果情報

[背景・ねらい]

テッポウユリは沖永良部島を中心に切り花生産や球根生産が行われ、本県の主要花き品目であるが、花きの消費低迷や欧米で開発されたオリエンタル系ユリなどが普及し、テッポウユリの消費量、生産量は減少傾向である。テッポウユリの品種は「ひのもと」が中心で、本県ではこれまで、上向き咲きの「ピュアホルン」、小輪系の「プチホルン」および無花粉の「クリスタルホルン」などの新品種を育成してきたが、他の品目に比べると品種のバリエーションが少ないことも課題である。そこで、新たな需要が期待できる新奇性の高い新品種の育成を目指す。

[成果の内容・特徴]

1. 「咲八姫」は、「ピュアホルン」の自殖で得られた実生から2013年5月に個体選抜、2014～2015年度に系統選抜、2016～2017年度に系統適応性検定試験、および沖永良部地域における現地適応性検定を実施して育成した。
2. 本品種は花被片が従来のテッポウユリの6枚に対し、15枚ある“八重咲き”である(図1)。
3. 花は“上向き”に咲き、葉は“立葉”で、親品種の「ピュアホルン」と同等に“草姿が優れる”(図1)。
4. 切り花栽培では4～5月咲きで生育開花特性が“概ね安定”している(表1、表2)。
5. 本品種は、親品種の「ピュアホルン」と同様に葉枯病に“強い”特性を有している(図2)。
6. 一般消費者向けの球根販売(ドライセール)用品種としても利用できる。

[普及のための参考情報]

1. 普及対象：テッポウユリ生産
2. 普及予定地域・普及予定面積・普及台数等：鹿児島県沖永良部島、1ha
3. その他：
 - (1) 促成栽培や半促成栽培では、「ひのもと」より開花が遅く(表1)、奇形花やブラスチング(蕾の発達が途中で停止する生理障害)が発生しやすい(データ略)。栽培期間中の過度な遮光やかん水不足もブラスチングを誘発するので注意する。
 - (2) 切り花出荷する場合は、通常のテッポウユリの出荷切り前(蕾長)では正常に開花しにくいので、蕾の開花を促進する前処理剤の利用が必要である(データ略)。
 - (3) 「咲八姫」の栽培には鹿児島県の許諾が必要である。

[具体的データ]

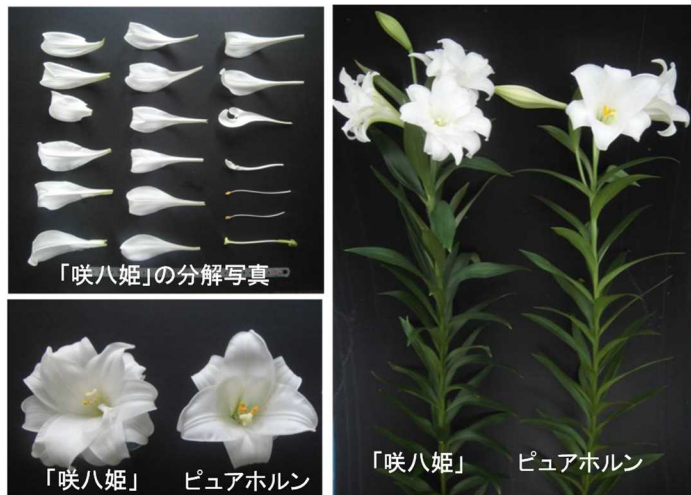


図1 「咲八姫」と親品種「ピュアホルン」との比較

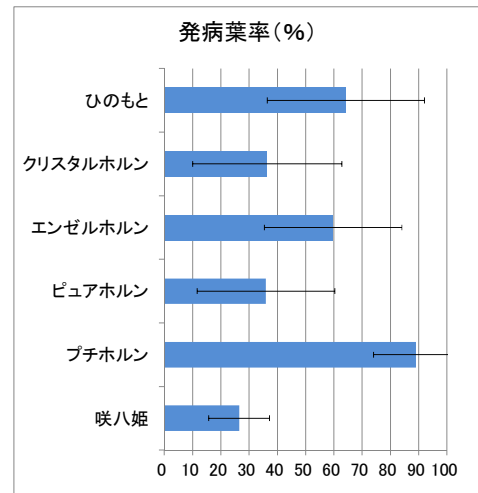


図2 葉枯病感受性の品種間差
 検定方法：葉枯病の罹病葉による接種、発病までトンネル内に静置。2017年4～6月に4回実施した接種試験結果の平均値。

表1 沖永良部島の雨よけハウス栽培における4月開花作型での生育開花特性

品種名	収穫 盛期 (月/日)	到花 日数 (日)	草丈 (cm)	花数		ブラス
				1次 (輪)	2次 (輪)	チング率 (%)
咲八姫	4/18	206	110.6	3.0	0	0
ひのもと	4/7	195	102.0	2.8	0	0

耕種概要) 定植：2017年9月24日(球根冷蔵なし)、供試球根サイズ：3S(30～39g)、
 施肥量：N:P₂O₅:K₂O=15.6:0:6.5kg/10a、その他：雨よけ栽培

表2 南さつま市の雨よけハウス栽培における5月開花作型の生育開花特性

品種名	収穫 盛期 (月/日)	草丈 (cm)	葉数 (枚)	花数	
				1次 (輪)	2次 (輪)
咲八姫	5/6	159.7	93.6	5.4	0.3
ひのもと	5/9	139.9	101.0	5.3	0.9
ピュアホルン	5/9	126.4	77.3	2.9	0.0

耕種概要) 定植：2018年10月3日(球根冷蔵なし)、供試球根サイズ：3S(30～39g)、
 施肥量：N:P₂O₅:K₂O=12:8:8kg/10a、その他：雨よけ栽培

(今給黎征郎)

[その他]

予算区分：県単

研究期間：2012～2018年度

研究担当者：今給黎征郎

発表論文等：

- 1) 鹿児島県農業開発総合センター花き試験成績書(2018):57-61
- 2) 鹿児島県農業開発総合センター普及に移す研究成果(2018)

<https://www.pref.kagoshima.jp/ag11/pop-tech/zenbu/1327.html>